

午後Ⅱ試験

問1

問1では、企業におけるテレワークのためのSSL-VPN環境の構築、仮想デスクトップ基盤（VDI）環境に関する技術的な考察、及び冗長ネットワーク構築を題材に、テレワーク時代に必要となるネットワークを構築するための技術について出題した。全体として正答率は平均的であった。

設問3は、TLSプロトコルのベースとなっているPKI技術の基本や、クライアント証明書による認証の基本を問う問題であるが、(1)、(4)の正答率が低かった。基本的な事柄を理解していないと思われる解答が散見されたが、これらの技術は安全なネットワークの構築のために重要なので、正確に理解してほしい。

設問5は、OSPFの等コスト経路の経路選択やVRRPと合わせた冗長経路に関する問題であるが、(2)のうち、コストの正答率が低かった。OSPFによる経路制御やVRRPと組み合わせた経路冗長化はよく利用されるので、理解を深めてほしい。

問2

問2では、サーバ仮想化技術の利用やコンテナ仮想化技術の利用を題材に、ネットワーク構成に視点を置いて、可用性の確保方法やコンテナ仮想化技術を踏まえた監視方法、アプリケーションシステムの移行方法、移行する上での課題について出題した。全体として正答率は平均的であった。

設問1(3)は、正答率が低かった。VRRPは可用性確保のためによく利用される技術であり、動作原理について正確に理解してほしい。

設問2(2)は、正答率が低かった。HTTPのヘッダフィールド情報のうち、ホストヘッダフィールドを用いてアプリケーションを識別する技術はリバースプロキシでよく利用される。HTTPプロトコルの特徴を踏まえ理解を深めてほしい。

設問5(4)は、正答率が低かった。本問の動作確認を行う目的は、移行手順に記載の作業が正しく行われたことを確認するためである。共用リバースプロキシの動作確認だけに着目した解答が散見された。本文中に示された状況をきちんと読み取り、正答を導き出してほしい。